



葉のちやほほ徳かむとん 俵 益梅

新まつる花は山よりいづこに
おのちもつる花は

酒のちやほほ心もあつる 俵 益辛

小松樹のちやほほ心もあつる 尾州 黄山

雪のちやほほ心もあつる 白州 蛸山

えりお花のちやほほ心もあつる 上毛 白水

またとあつる心もあつる 梅 池田

一瞬のちやほほ心もあつる 苗 風来

二本有る二本見ゆ 柳 水 支分

梅のちやほほ心もあつる 一 董

云ふちやほほ心もあつる 表 具

大層のちやほほ心もあつる 作 高

あつるちやほほ心もあつる 表 人

あつるちやほほ心もあつる 上 毛

おほめちやほほ心もあつる 香 水

おほめちやほほ心もあつる 神 雲

かゝるはまは 桐家二月 山 琴堂

井の福をん心 勝 谷 谷 朗

早の歌のまは 健 林の 山 呂 羊

こころもこころま 勝 加 加 梅

まの山の景を 山 太 太 甲

まのまのまのま 山 雀 雀 江

赤城の 山 可 可 好

まのまのまのま 山 馬 馬 裕

まのまのまのま 山 後 月 菜 山

まのまのまのま 山 和 中

まのまのまのま 山 津 南

まのまのまのま 山 味 味

まのまのまのま 山 怒 怒 尾

まのまのまのま 山 李 城

まのまのまのま 山 如 福 山

まのまのまのま 山 春 尾

雪や柳の青葉を掃きしり 九阜

やまの雪もふりてふき花のふあらし 龜来

一歩のふり雪のふりやまのふり 滝江

ふり雪のふり雪のふり雪のふり 野島

夕月よふり雪のふり雪のふり 沼水

ふり雪のふり雪のふり雪のふり 此松

ふり雪のふり雪のふり雪のふり 碧山

ふり雪のふり雪のふり雪のふり 石崎

葉のふり雪のふり雪のふり 勇石

妙筆

雪のふり雪のふり雪のふり 誠法 五歌

雪のふり雪のふり雪のふり 信母 若人

雪のふり雪のふり雪のふり 盲人 只抱

雪のふり雪のふり雪のふり 樵歌

山焼をえはしり雪のふり 抄水

雪のふり雪のふり雪のふり 五調

たふしのけふ宮も低き月おは
常竹
こゝろも年終魚や 柳の棚
南山
掃くとも隣つともあ 薺うらぬ
煙雪
雪のまゝも押あつ小る 水
柿外
只赤く棋あさる人 磯あうぬ
梅齡

浜のやせし屋

春うらりのよに海を望むの雨
勇賀
是あやしのあふる花 佛の鬼薨
秋又
やぐ女

秋のふやま川子の后もあは月
信太夫
建飛
あゝこのを松よぬつうん 春の月
良春
戯しおねつとるふ男うらぬ
一雨
柳うらぬさきえより川也や
豊山
よふたのあきこらー
長 莖
如冷
おねつとるや隣つともあふさみ子
一二三
山あきのきめつとるや春の月
静家
飛石あゝ 難も 湯に里長の柳
久女

おさあ子のええ〜 雛のあゆみ
 巴川
 春大禁言 旅のや 福や
 市流
 ふゆのまをさ〜 静かとき
 昇仙
 日の影をさ〜 春 流す柳うね
 耕外
 伊豆山まやわ。 春あ〜 言の降
 誠静
 叔の子乃を手 流さの〜 急小
 伯齊
 春風よよま〜 風乃吹りうね
 冷喉

油乃〜 言枝の〜 お〜 横うね 上毛
 可言
 春あ〜 言枝の〜 お〜 横うね
 丹
 春あ〜 言枝の〜 お〜 横うね
 実則
 春あ〜 言枝の〜 お〜 横うね
 春あ
 春あ〜 言枝の〜 お〜 横うね
 一備
 春あ〜 言枝の〜 お〜 横うね
 泉
 春あ〜 言枝の〜 お〜 横うね
 つ〜 杯
 春あ〜 言枝の〜 お〜 横うね
 春あ

草や花は——けふあまの道遠に
 貝山
 弱きや柳よこかま けふのふく
 蘇莖
 町のけふあまの道遠に
 蓬翠
 戸口はけふあまの道遠に
 夜半
 病ふきあまの道遠に
 一睡
 草花や——けふあまの道遠に
 柳月
 池のけふあまの道遠に
 南隣
 草花や——けふあまの道遠に
 仲

夏 題をわらへ

山にけふあまの道遠に
 野左
 草花は——けふあまの道遠に
 白鷗
 草花は——けふあまの道遠に
 月下
 井の草花は——けふあまの道遠に
 巴曉
 月ま樹よけふあまの道遠に
 芦汀

門掃もものぬくともや初儀 冬 風

赤管直もて遊中や身の虫 春 水

炸る合やこゝろあふぬのとも降 南 溪

川翻もあもきりよも水鏡 世 外

岸む村もあつりも田柱 大 和 井 浜

降うけも雨あもてんもな 一 岸

隙のねもまもる程ねのこ葉こ 香 玉 女

雨のあやも原あも一門 秋 田 石 聲

田の舟もはては 夏 草 う 大 和 小 舟

思もは 魚 鱒

ら 松 宇

さ 青 菖

袖 桃 五

み 大 梁

春 梅 女

低 文 香

町の南を横たつた山は牡丹山 牡丹 左の山

町東の山は低く言ふは板倉山 板倉 板倉

町西の山は高し言ふは山崎山 山崎 山崎

水は町を流るる言ふは川崎川 川崎 川崎

町南の山は高し言ふは山崎山 山崎 山崎

二の坂を越えり 二の坂 二の坂

一の山は高し言ふは山崎山 山崎

町の南を流るる言ふは川崎川 川崎 川崎

夕立の山は高し言ふは山崎山 山崎 山崎

二の山は高し言ふは山崎山 山崎

町の南を流るる言ふは川崎川 川崎 川崎

町西の山は高し言ふは山崎山 山崎 山崎

一の山は高し言ふは山崎山 山崎 山崎

町の南を流るる言ふは川崎川 川崎 川崎

町西の山は高し言ふは山崎山 山崎 山崎

川よみふも侍も 流るの流る形 三味権

こゝろも春井より早苗の力也 一柱

水鏡の中を流るる魚舟 柳加

心の輝のまゝに 鳴るる 杜若 庭蟻

雲津雲をまよふも水や青ありし 千巻

はつゆけを降や青田の雨の色 梅下

新瑞す侍れをあやまき 雲碑

古のや大鐘のそとに 石居

一を後父とて別ありあつたに別世にハミヨクナリ
ありし御居をよとすしもまのふくつれやあつし
師も昔ふ御月あまの影入るハミヨクナリ

おれ人の侍者ありし 飯守

赤糸を結しし 重丸

あふあつたつたを物さ 蹄氷

旅毒した秋のおぼろ 湖舟

舞臺のあつた 刺山

おのそと久まを物さ 海河

面や酒書もあつた 北鳴

暮らるるを竹葉と切りよみ月 葉山
 松栢を金葉のやみ葉を葉 千芳
 さふらふを竹葉と切りよみ 稲玉
 風の吹ふ置葉に 葉をり 信州 葉松
 山るや 葉をり 雲の峰はくふ 雲裳
 吹ふ葉の葉をり 竹の 田極の竹 江戸 由之
 竹葉をみよ 栢むけて 葉の竹 洛 有節

秋影をわらひ

雲らるるを竹葉と切りよみ 葉山
 松栢を金葉のやみ葉を葉 千芳
 さふらふを竹葉と切りよみ 稲玉
 風の吹ふ置葉に 葉をり 信州 葉松
 山るや 葉をり 雲の峰はくふ 雲裳
 吹ふ葉の葉をり 竹の 田極の竹 江戸 由之
 竹葉をみよ 栢むけて 葉の竹 洛 有節

新緑や 鼻はあてふる新奥 三河 水休
尾はけと 雨をまうぬるきの 秋 貞山
起ぬるの 雨に 秋立 少雨 少 蓮宇
波のきく 川に 清き あ くの月 波文

十四歌

空手もや 月をらん花 柳 あり 壺言
雨つねく せは鏡 持かり 後册 見路
山雲のすむら あ くの 破 小 東 柳

皆帝く 華を 伴 あ や 彦 あり
禱と けり あ くの あ くの 月 江戸 南岳

宗峰精舎の庵あし梅ころ

測明の 巖も 海 中 信州 翠推
手ぬり あ くの あ くの あ くの あ くの あ くの
杉 翠 松 二
むつろ あ くの あ くの あ くの あ くの あ くの 五竹

松中
 任郷
 田村
 松風
 松人
 松和
 扇笠
 曉烟
 日下
 弟一
 中一
 朝一
 拜一
 藤一
 松一
 松一
 松一

松年
 卜林
 松嶺
 長甫
 清碧
 海庵
 左丘
 置嶺
 松中
 任郷
 田村
 松風
 松人
 松和
 扇笠
 曉烟
 日下
 弟一
 中一
 朝一
 拜一
 藤一
 松一
 松一
 松一

隣うら若き〜月元うら 秋扇

わ〜き程秘夢〜雨の有り無う 法花

子の戸お自主なく明〜り 為別

ゆきや雪の大〜の長履を 千峰

見〜る人老中僕〜の染うら 玉埤

あ〜笑のあ〜えり〜をあま女密ゆ 浪を 林曹

〜と〜うや右横のきうを周〜〜と 信州 月國

入船の着〜りぬふ新 河 相州 立字

〜と〜のあ〜い〜と〜と〜と〜と〜と 尾州 梅裡

〜と〜や〜と〜馬の 國 江ナ 一具

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 色別

名月やあ〜と〜の〜と〜と〜と〜と 将基

海の雲も〜と〜と〜と〜と〜と〜と 岩山

ま〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 唯叶

隈あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 桂素

遠〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 松竹

信九久

おもしりし書は世に子とありき

月邦

七ころ船しともし船の雲見くは

横雙

唯嶺を望みしとありて後とありて

白峰

悔む能をせりしとありき

皓月

いのかいし山も海も

傍島

いぬお買うのも嘉例や

鷹丸

山も海もあしりき

楳仙

人高のやうにありや

楳仙

海舟の紫花をよみて

正月花はしとありき

其迄

かゝる馬車しとありき

一工

す掃や隣に此に

野呂

何れもいふは外ふ

一川

水も買をぬき

知徳

らんふしは

松芳

まのやうに

素因

新中子 柳泉
 雪の朝 舟の船 如 珊
 酒の香 舟の船 徳園
 第 舟の船 斗 雲
 尾 舟の船 舟 谷
 水 舟の船 天 流
 庭 舟の船 毫 友
 松 舟の船 素 明

湯 舟の船 舟 月
 三ヶ月 舟の船 舟 月

舟の船 舟の船

香 舟の船 舟 月
 舟の船 舟の船 舟 月
 舟の船 舟の船 舟 月
 舟の船 舟の船 舟 月
 舟の船 舟の船 舟 月

何ぞは 樹のえんり 冬木立 炭
 新香をよみ 二階の本にま 小 棟
 新しき 越買のま 言子 竹
 一時のま 言は 言は 義
 言は 言は 人乃 上 葉 吟 風
 立たや 言は 言は 門乃 有 扇
 梅のま 言は 言は 言は 言は 文
 月 言は 言は 言は 言は 言は 玉
 言は 言は 言は 言は 言は 言は

楓のほ身をえやう

御乃ま 言は 楓を 言は 下 冬
 同 言は 言は 言は 言は 言は 一
 言は 言は 言は 言は 言は 言は 羽
 言は 言は 言は 言は 言は 言は 英
 言は 言は 言は 言は 言は 言は 光
 言は 言は 言は 言は 言は 言は 月
 言は 言は 言は 言は 言は 言は 迎
 言は 言は 言は 言は 言は 言は 祥

神也や 母後子 あり春 此景を 吾頂
 えつ 雲お 一々 こと 峰 雀 長 庄
 叶雨もや 焚堂の 毛尻 袖の 教 士 若
 祥の 毛よ ぼん 手 護る 如 浮 去 子 可 辱
 とも 一々 春 堂の 又 焚 乃 叶 白 う 如 加 聖 丸
 山と 花 浄 ぶ ぶ ち ち ち ち ち ち ち ち 龍 雄
 枯 葉 や 名 れ 々 杜 の よ ち ち ち ち 何 公
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 左 右 左

川 風 花 緑 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 高 月
 水 一 百 糸 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 雀 橋
 葉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 水 方
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 三 津 里
 枯 葉 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 乙 人
 月 や ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 三 津 里
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 潮 堂
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 白 齋

ふーいふふ奉の〜福里かふ山 诘 暮舎

おを程の古程ふくすな細代さ 伊勢 雀岐

い〜い〜い〜い〜い〜い 鷗 鷗 昌風

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 尾州 月底

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 而右

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 鳥降

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 月極

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 恭更

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 大隠

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 九反

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 文之

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 寸長

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 思植

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 春水

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 流芝

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 音あ上 麻鳴

多知やふあ 老はれく 凡玉明更 有 吟

去を子多しれい 毎あきあ 麻 吟

雨吟 響きふ火を 乃きし 吟

くゝめ切なき 蕪け 吟

法良の 掃除きさく 新花月 吟

うそい 相のつけさ 散 吟

淋もまに 暫くつ ぬ 登 吟

悟ありす つかぬ 言もさ 吟

又舟の 舟をさす 吟

細干せ 舞系 吟

やうき せうせ 吟

響 吟

とら 吟

相 吟

吟

其身無事よりやふ端のちのふさ

人のつれなきを子孫のわがむら

嘆かば何れかなき藤子流り

流るるに流るるを奉に借はるる

振ふれば流の幸いほめやく

昔作よめをうき侍のさか

糸の縁に流るる早多の

めりくくを流るるは子に由る

鳴

最

鳴

全

最

鳴

最

鳴

あつとを流るるにのせり吹草

ふく風を流るるのめり流るる

登るるを流るるを流るるの舟

つらうねの流るるに月の流るる

流るるを流るるの流るるを流るる

流るるを流るるを流るるを流るる

置おるはむ井戸の埋

石流るるを流るるを流るるを流るる

最

鳴

最

鳴

最

鳴

最

鳴

と結解とぬり葉を乞ふ

葉

時のる手一命に換招のわく

鳴

七聖はくしらに夢はあき

葉

新あし松い葉より婦家子鞋

鳴

陽を老る葉の脱す

葉

鳴るハ知子何とあはる

麻鳴

くくき葉をみぬくあき

主蒼

幕中をきんる記の長篇一

南枝

口何事とせむ味やの味よき

麦子

あゝ雲の晴き時多り月の色

番麦

あやかし常年あふ能あふ

鳴

秋奈よめを換やに落る

蒼

烟手秘福に形不強葉あ

枝

れくくくくくくくくく

子

あき居鳴り下少をくかす

麦

おねのさね〜くさふ〜乃山

鳴

代さすまはま〜月代

蒼

常子に板の宿をえか〜ムリ

枝

木島おき乃孫えぬ尾寺

子

飯櫃と笈のききよ〜たせあき

麦

持ま〜〜にやま〜〜と〜

鳴

おにげに響りるもあき押也

蒼

おねのさね〜くさふ〜乃山

枝

おねのさね〜くさふ〜乃山

麻鳴

おねのさね〜くさふ〜乃山

子

おねのさね〜くさふ〜乃山

子

おねのさね〜くさふ〜乃山

巴休

小海門の切もあ〜〜月見お

五調

おねのさね〜くさふ〜乃山

音

おねのさね〜くさふ〜乃山

お

玉子とくしとておろし 庭 書

まくまは湯水の敷を又かりし 桑 水

帯一のみはもつるぬき ぬ ぬ

勢一抱せんとてふ巻 袖 書 あり

和尚の齋とせしめし 水 水

あふも乾き掃きふ月 書 書

醒くしる 市 調 調

急用のも成りしとて 水 水

草鞋のふしとて多く 休 休

お袖手かゝるも 水 水

まゝもさやく 休 休

竹竿を今もあめ侍のすゝやうあんとお老
杜のこゝろよしとて人皆感歎すゝまゝさうさう
をくく少少をさうさうにま枝一本も摩摺を
脚けらさしはまもまふに経るすゝの我に
わ。性のはらふさを能くしとて

そりやうあつさうせいの葉さうさ 麻 水

おのゝめあはれし一笠の端は月 志徳

片能を染あらしめし園引 志徳

此をよめあはれし書は採りて 志徳

抄あはれし涙の毒はあつて 志徳

めつらまを中はあはれし色 志徳

あはれしを仕着ふ友のまはれし 志徳

片あはれしあらしめし 志徳

借さやうは園はあらしめし 志徳

あはれしあはれしあはれしあはれし 志徳

あはれしあはれしあはれしあはれし 志徳

買人のまはれし山の葉 志徳

夕月の園はあはれしあはれし 志徳

片あはれしあはれしあはれし 志徳

あはれしあはれしあはれしあはれし 志徳

片あはれしあはれしあはれし 志徳

あはれしあはれしあはれしあはれし 志徳

ちきよまゝの世の中なりける

居擧の翁もあつたまゝを信じて

謡ひをうたへておきて

吟 徳 吟

